聖旨默示
安寧幸福之基

眞果實結問答

著者　土谷幾太郎

特2
82

013666-000-8

特21-826

真果実結問答（安寧幸福之基）

土谷　幾太郎／著

M25

ABA-0136

特21 826

東京帝國大學圖書之印

聖旨默示
安寧幸福之基

實結問答

著者 土谷幾太郎

安寧幸福之基

眞果實結問答序文

此問答は
郎氏の問
に答
帝の

私の親愛の友外山喜三郎氏の問で答は私の答ですが然私の心の中に示されたる默示に依て答をしたものですから私の答と御思召れてい大な

眞違で御坐いますが何故なれば元
私ハ大工で學文の力抔と毫も有
ません者ですから能々其邊を嘗
ふて上帝の御旨と堅く御信下さ
い今おれを眞果實結問答と題し
廣く世の兄弟姉妹ゟ頒ちたいと

思ひます何卒心の中を虛ゟして
幾度となく御讀下されば自然ゟ
人間たる本分が能解て參ります
若お解兼る所ろがありましたな
ら幾度御質問に成ましても決し
て厭ひハ致しませぬ

明治廿四年十二月

道理之僕

土谷幾太郎誌

四

安寧幸福之基

眞果實結問答

問

人間が最も注意し尤も大切に養ひ保護しなければならぬものは何であるかと申せば生命だと云ふ事は何人も能御存の譯柄ですが此生命を養ひ保護するには何か良き方法がありませうか

答

人間の生命を養ひ又は保護するに良き方法ハ衣食住の三品が充分にあければ不能樣に一寸考ひられます

けれど其三品計りでゝ決して充分したものと申されません」此三品の中衣と家との二品ゝ体の外より來る障碍を防ぐもので丁度城の壁と申す樣な物です又た食物ゝ消化して体の血や肉と成ものですから一品でも缺てゝならぬ物だ位は何人も知てお在の事です偖此三品が靈の生命を養ふ事が出來ませうか元來人間が生命を養ひ又は保護する念慮があるゝ快樂を得んが爲で世の中で何が第一ゝ快樂で永く續かと申せば心の快樂で御座います何故ならば實際ゝ就て御覽なさい衣食住に不足なき人が毫も心の快樂がなく却

て苦の多きれ方もあり又は衣食住に不足して貧き容体ゝ見ゆる人が少も苦がなく却て心の快樂が多きれ方もあるのゝ外でゝ御坐いません靈の生命を養ふと養ゝざるとの事だが如何して靈の生命を養ひ又ゝ保護するかを明ゝ知なければ迚も全き心の快樂を得ることが出來ません」此靈の生命を養ふゝ最も緊要な方法ゝ眞實の道理の教です語を變て申せば優劣和合の聖道を識る事で是ゝ上帝の御旨より出たる貴き教で御坐います

問

靈の生命を養ひ又保護する爲に優劣和合の聖道を識と申す事い如何事でせうか

答

優劣和合の聖道を識と申すことは人間本性の知識を以て明かに識ことは難けれど天地間に靈妙に存在してれる天道と人道との和合を識る事で御坐いまを又此和合の聖道を識れば生命を養ひまた保護する事が出來まする再説べ上帝と尊敬し奉る眞實の神と人間との和合すべき道理を在世中に能く識りて實行すれば心の中に眞實の快樂を得ることは明ですされば人間の生命が和合の聖道に因て養れ又た保護すると云ふ事柄を審かに心に識ることが出來ます斯樣な譯ゆに人間在世中際限なき生命たる永遠の幸福を上帝より賜わり快樂の場所に到るい明です亦靈妙な優劣の和合したる現象一体の物を語の上より申せべ天地と云ひ神人と云ひ男女と云ひ父母と云ひ善良と云ひ眞實と云ひ夫婦と云ひ兄弟と云ひ姉妹と云ふが如く語の上にも優劣の和合として上帝の聖旨に現れたるもので之を聖道の語と申します

(優) 眞とは父の神と云ふ義で男を父と稱ふ之れ優

る者のことです

（劣）實とは母の神と云ふ義で女を母と稱ふ之れ劣る者のことです

（優）天道とハ眞道と云ふ義で榮光の道即ち優道で御座います然〳〵て父の聖靈智慧聰明の靈です智慧と榮光と權威とは父の神から出るものです

（劣）人道とは實道と云ふ義で愛の道即ち劣道で御座ます然して母の聖靈謀略才能の靈です知識と明哲と救者とは母の神から生ずる者です

優る道の天道ハ父の神の道で人間が世に在る間の行ふ因て賞罰を與ふる道で御座います

劣る道の人道ハ母の神の道で人間の罪惡を赦して救を與ふる道で御座います

問

眞實の道を識たいと望を心に起さぬ人でも心の虛き人ならバ何人でも容易ふ此道を識ることが出來るものですか詳細ふ說明をして下され

答

眞實の望と申せバ唯一語の樣ふ聞へますが二の事を

一語にしましたもので眞の望と實の望と二つに別れます此二つの中眞の望と申すは人間が世の中に居ます間最大幸福と定めます處ろの父の神卽ち上帝より人間に與ひられます智慧の靈のことで御座います然して實の望と申すは母の神則ち上帝より人間に賜る智識の靈のことで御座います斯樣に區別しますれば最大幸福に二の望ある樣に思はれますが神則ち上帝の聖旨に定め置れたる人の魂の資格で御座いますから人間に與へられます望にも亦優劣の二つに區別さきます人の魂の資格と申すことは子供を澤山持まし

た親の心に記してあるから親は心の中に記憶して居ります此記憶の資格のことは上帝たる父の神と母の神とが聖意に定め置れたる事で人の肉体の親達に其肉体の資格を以て其心に示されて居ます子供の肉体の資格と申すは男女の別又は長次子の別あるを申します親が自分の家の相續を長子に任ますは當然の事と心に定めて居ます然し乍ら何か事ありて次子に相續させるは變則で御座います人の肉体の資格を斯樣に區別をあるのは肉の眼に見ない人の魂に區別があるのです凡て人の本性に與へ置れたる知識で肉

の眼に見ゆる物より見にない無形物を識ることが出來ますから神則ち上帝ハ靈のことを人の心に教にます其教も肉の眼ヨ見ゆる人の肉体から肉の眼に見にない人間の魂の事を心ヨ教へらるゝのです

人の本性の心ヨ幸福として思意して居るのも有形の財産を肉体の親より受ることですが此念慮ハ長子ヨ計りあるのではなく次子にも矢張其念慮があります此念慮ある譯ハ上帝則ち靈の父母が人の魂の資格ヨ應じまして智慧の靈と知識の靈とを區別して與へられますからです

問

人間たる者の道を行ふと行わぬとにより人の世の中にある間何な區別がありませうか

答

人間ハ靈の親上帝がありますから道を行ふ人ヨハ賞を與へ道を行ぬ人ヨハ罰を與へらるゝの區別が御座います

問

靈の親上帝より人間が世の中にある間に與へらるゝ賞罰とハ何な事を指ますか

答

霊の親上帝より人間が世の中にある間は與へられます賞罰と申すハ人間が自から行の善惡を辨別することハ難いけれど道を行ふて居ます人の心の中ハ常に勇しく爽快です又た道ゐ背ることを行ふて居ます人の心の中ハ常ハ苦に堪ませんのを取も直さず上帝の賞罰ですから人ハ自分の心を能く顧れば自分の想思や言行の善惡を識ることが出來ます斯樣ハ上帝が人間在世間に心の中へ賞罰を示し置れますのハ未來の結果ハ賞罰を與へ置るゝことを教おかれますのです

から最大の洪恩と謂なければ成ますまい

問

人道を識ることが出來ませうか如何

答

今世人が魂に有して居る知識でハ明かハ人道を識ることは六か敷御座ゐます

問

何故に今世人が魂ハ有して居る知識でハ人道を明かに識ることが六か敷のですか

答

總て人間の肉体はハ食物がなければ働けず生活して居れぬと云ふことを知れども至極大切なる魂なハ靈の食物の必要を存じませんから人の魂ハ餓て居るのです人道を識ることの六か敷と申すは全く餓た魂を持て居からです若し人道を明かに識りたいと思ひなさらバ靈の食物を餓た魂ゟ充分飽〳〵むるの外はない

問

靈の食物とハ何なものですか

答

靈の食物と申すハ上帝の聖旨で御座ハます

問

何で上帝の聖旨が靈の食物ですか

答

上帝の聖旨が靈の食物と申す譯ハ上帝の聖旨と云へバ人間の本性ゟハ有して居らぬ智慧の靈と智識の靈のことで取も直さず上帝の智慧と智識とのことです之を名けて魂の糧即ち靈の食物と申ます何故なれバ人間の魂の現象たる人心ゟ上帝の聖旨を受ることハ人の魂の生命です斯樣な譯ゆゑ魂の現象たる人心ハ聖旨を受て活動するものです此上帝の聖旨たる智

慧と知識とを人心に受ることを教ゐまするを完全な宗教と申しまする

問

人乃心に平安を與ふる良き方法がありますか

答

人の心に平安を與ふるハ人間の力では迚も出來ませんが然し平安を得ると得られないとハ唯人心の望の善悪によるもので天理に何卒從ひたいと云ふ心よなれば即ち其人の心に順の靈が與へられますから平安が與へられまして証據で毫も爭われぬ理です

問

平安は順の靈と仰せらるゝ樣ですが順の靈どハ何なものを指ますのか

答

平安ハ順の靈の働より起るものなれど順の靈の事のみ説明して平安を人に知らしむる事は難御坐いますが唯人の心が平安にあるのハ其人が天理に從つて道を行んとする時ハ天理を明かに心に識認して居なければならぬもので天理とハ何なことかと申せば即ち人間の靈の親上帝自らの聖旨よ定め置れましたる律法

を申します是が即ち天理で御坐いまする又眞理だの正理だの道理だのと云ふも渾て天理の事です故に人間が天理に悖逆たる行をすれば其人の心に決して平安ではありますまい又た上帝が順の靈を人に與へ賜ふと云ふ靈の親たる上帝に順ふ可き智識の靈を與へられるので人間自らが持て居る智識では一として平安なることはありません是を以て平安に順の靈と申します

問

世界の人の本性に具へてある智識より出たる言行に

は一として平安はないと云ふ說がありますけれど世上の人を觀るに日本人は申すに及べず世界各國の人々が文明開化に進みたいとの望より知識を研き居るではありませんか

答

自分の心の考を棄て上帝の賜たる心の眼を以て世人の行爲を照して其心中を悉く看破すれば一として道理に適しませんなにして道理に適しないかと心眼を開ひて其原因を搜に外ではない昔時教訓を人に施した人達が眞實の道理を心に悟るかつたので天與の資格

も辨へないで無暗に自分の思想を道理と定め嗚呼箇間敷も人の師となり教訓したから遂に其結果を今日に及したので一体人を教ふる人々が自分を顧みる知識の衰弱に心付ない程でしたら今日に至て人間本性の知識より考ひた事に一と〜て平安のなれ明かでせう斯様に成ましたから人間の靈の親たる上帝が人の知識大に衰弱せるを憐に思召れ今を去る九年以前土谷幾太郎を上帝の僕とし〜玉へて聖旨たる智慧と知識を世界万國の民の心衷に普く告識しめよと命令を下し給へました

問　獣の心にも惡がある譯もありますまいが邪惡な人を指て人面獣心と申し來りましたは何云ふ譯ですの

答　世界開闢の當時造物主たる上帝が人間の祖先を良人に造り出し給ひ其最初に人間の魂を造られまして此魂を男と女とに別ち人の魂を都て動物の長と致されました夫故人の魂を萬物の靈長と申します又た此魂の住處として土塵を以て肉体を造り與へられ此肉体に男に造られ其鼻に生氣を入られ此生氣に添ひて

貴重な靈を賦せられ此貴重な靈と云知識の靈と明哲の靈のことで此二個の靈に加へて自由と規則とを冠として與へられました彼樣に全く具備した男体より取分て女の全体を造り備ひられ茲に始めて人間男女の体は靈肉偕に全備至されました

前に陳ました知識の靈明哲の靈又た自由規則を説明すれば此樣な譯です人間の造主則ち靈の親たる上帝が人間の祖先を愛し聖なる男子の靈と聖なる女子の靈とを賦與せられ此男女の靈に添ひて自由と規則とを其首に冠として被らせ此聖なる男子の靈と云知識

の靈で御坐いまを此知識の靈は上帝の子なる男子の靈で取も直さず人間の心の中にある知識のことを申しまず此知識の首に自由を冠とゐして被らせ又た聖なる女子の靈と云明哲の靈で御坐います此明哲の靈に上帝の子たる女子の靈で即ち人の心にある明哲を申します此明哲の首に規則を冠として被らせ置れました然るに人間の祖先に此貴重な賜ものを受居るにも關らず悪氣の靈に誘惑せられ上帝が人間保護の爲定規として立置れました誡の規則を破り之れがため明哲の靈と規則の精神とを自ら失ひ是よりして其後

ん人間自らを保護する爲めに己れの魂は持てあるものん知識の靈と自由の心とのみ殘りまして遂に人間の心は滿足することが出來なくなりました其故人の心ん次第々々は淋くなりましたのです

前に陳た知識と明哲との事に付ましてん知識の靈明哲の靈と申しますも同じ意味で此知識と明哲とをして心眼とし知識を右眼明哲を左眼と致し此兩眼を良心又たん本心と稱ふることを三年以前上帝より土谷幾太郎の心に示されました此知識と明哲とも最も貴重な上帝の賜ですから實の人間たる者の魂には必ず

持て居なければならぬのは前は述ました通り人間の祖先が上帝の前は罪を犯してから心眼の一を失ひ今日は至るまで人間の心眼は片眼となりました此片眼は右眼で御座ぃまして知識の眼でも故に知識の靈に添て與ひられた自由計りを持て居るのです其か爲め人間の心は一定の規則が無くありて義と云ふものも共に無くなつてしまいました以上述た通り上帝が人間の心に與ひました貴き靈の知識即ち心眼たる良心を魂は持て居らぬ人を指て人面獸心の人とん申しまして何故なれば獸の心はん靈の知識が與へられて御座

いませんからです故に人たる者は自分を顧み上帝の聖旨に適るや否やを識認するを良心に問ふと申します然らば良心に問ひ聖旨に適わざる事は何あることでも行ふてはならぬ筈で若し少かでも之を行へば人面獣心の人と申さなければ成ません

答の結尾に唱歌を連ねて全部を補ひます元より無學の土谷幾太郎ですから語の巧拙は措て意味の處ろだけをれ採下さい

○このぎりなき生命を望む吾心知る人あらば共に求む

○此上もなき幸福得んと望む人天の帝の聖旨に順ひ

○心の眼備ふる事をしる人は幸うくる基ひとぞしれ

○心の眼二乍に備へ得は世にならびなき寶なりけり

○目に見ぬ心の眼以被見を天の網とや云べかりけれ

○善惡靈に問て惡と云ふ事は必らずなさじとぞしれ

○何事も天の帝の聖意に反かぬものを道とあそ知れ

○人でとに分別性をもつなれば皇民國家安全とし れ

○靈長に肉の眼持る其故は靈の眼あるを知らす前表

○基をも結の實をも知ずして師と成人の肝の太さよ

○最上の幸福望む我が心見る事を得ば他人も望まん

○最上の幸福こそは誰物ぞかねで得べくば王の物也

○本性の知識の儘に最大の幸福得んと望む人心
○本性の知識の儘より快樂を知る事を得ば誰れも認ん

安寧幸福之基
眞果實結問答終

明治二十五年一月十日印刷
同　年同月十一日出版

著者　東京芝區田町一丁目三番地　土谷幾太郎
發行者　同芝區本芝二丁目十番地　外山喜三郎
印刷者　同區愛宕下町一丁目四番地　松尾政吉

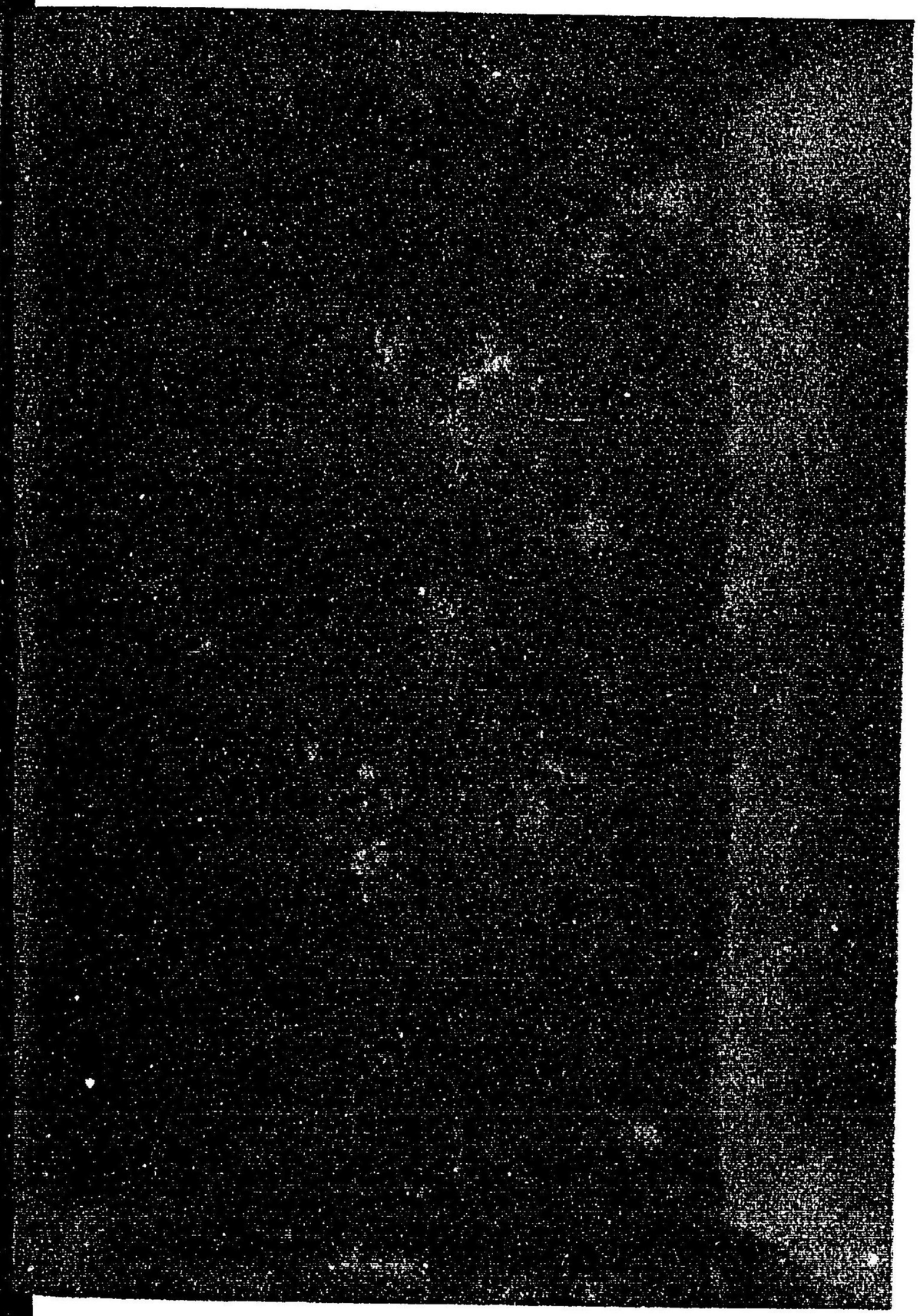
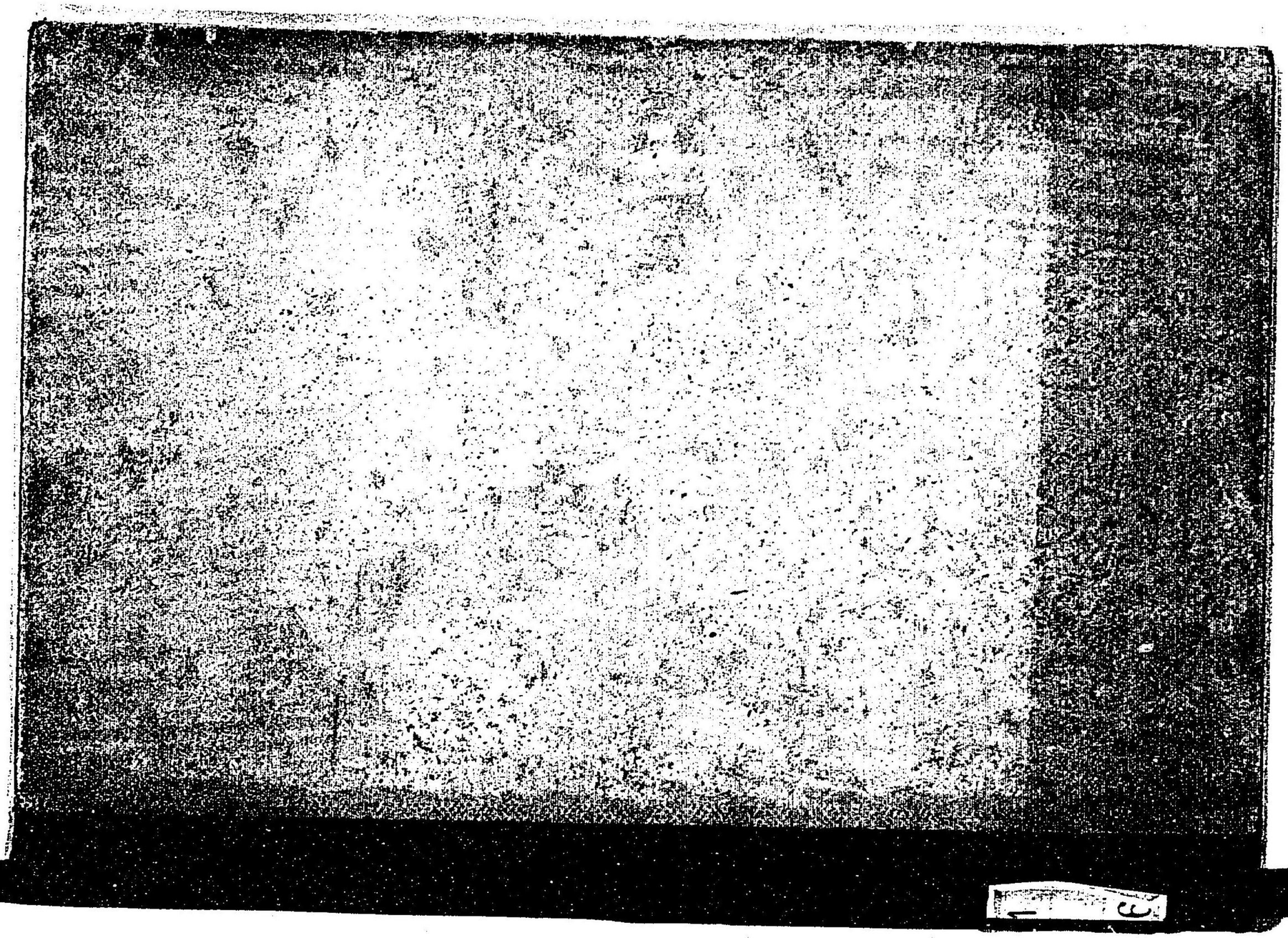
京橋區采女町九番地文英社印行

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]